

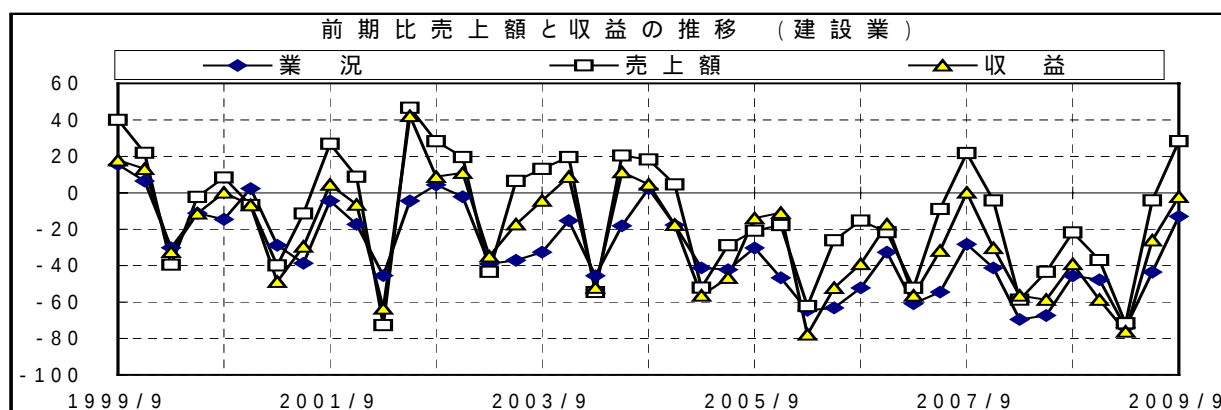
建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-74.0	-43.6	-13.0	-21.7
売上額	-71.8	-4.3	28.2	-8.7
収益	-76.2	-26.2	-2.2	-2.2

今期の業況判断DI値は 13.0 と、前期比マイナス値が 30.6 ポイント縮小、改善幅は 5 業種中最も大きく 2 期連続の改善となった。地区別にみると、全地区で改善している。

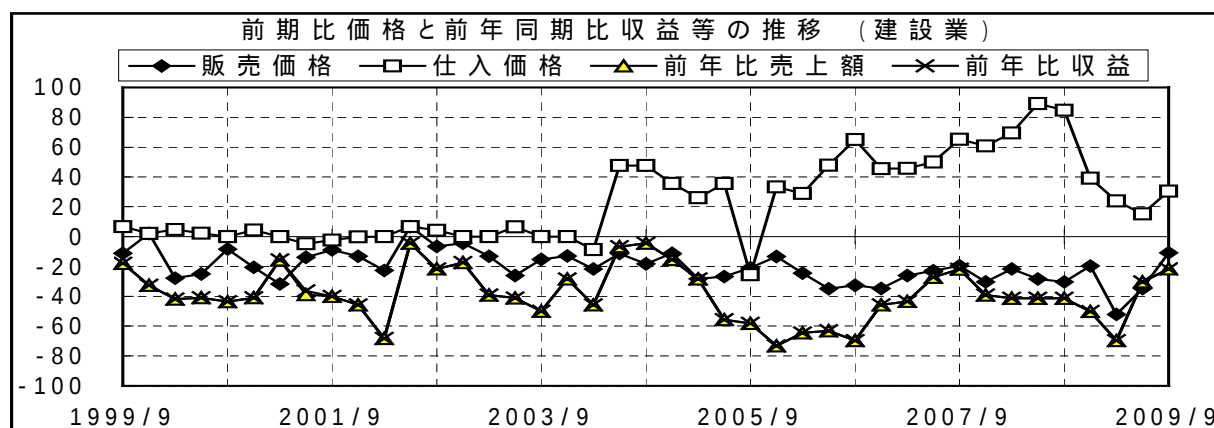
売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が 28.2 と、マイナスからプラス値に転じ、収益が 2.2 と、マイナス値が縮小し、それぞれ 32.5、24.0 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
請負価格	-52.2	-34.7	-10.9	-4.4
仕入価格	23.9	15.2	30.5	21.8

請負価格判断DI値(10.9)は、前期比マイナス値が縮小し 23.8 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、仕入価格判断DI値(30.5)は、前期比プラス値が拡大し 15.3 ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-23.9	-26.0	-8.8	0.0
人手状況	21.7	15.3	-2.1	-6.5

残業時間判断DI値は 8.8 と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比 17.2 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 2.1 と、前期比プラスからマイナス値に転じ 17.4 ポイント低下、人手不足感を強めている。

□ 設備投資の動き

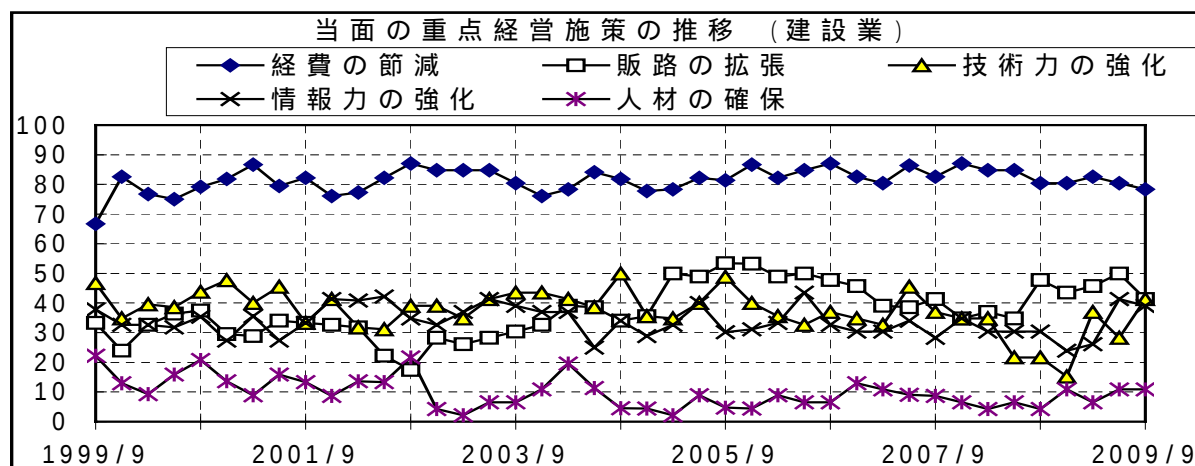
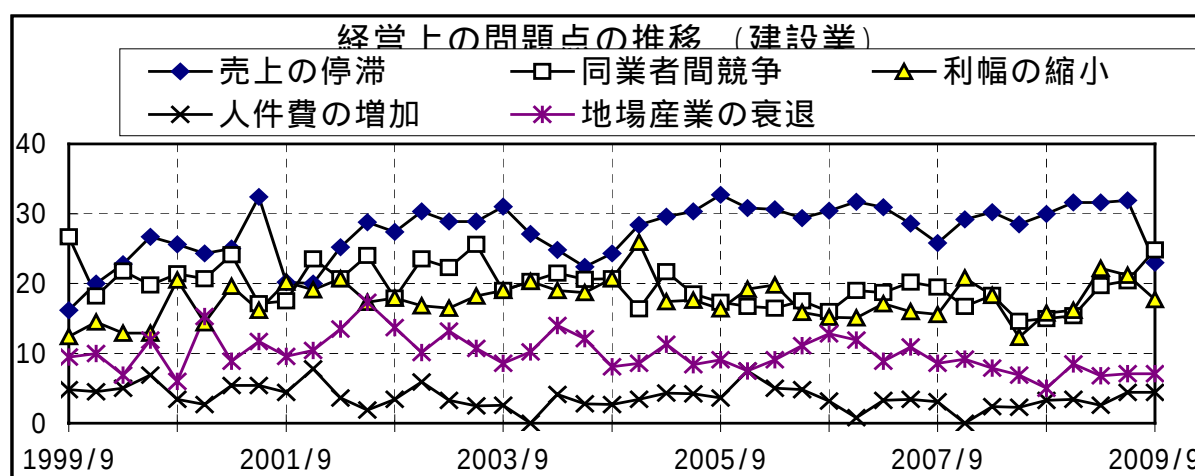
設備投資の充足感を示すD I 値は 2.1 と、前期(15.2)のプラスからマイナス値に転じ17.3ポイント低下、不足感が強まる一方、適正と回答した企業は89.1%と、前期(80.4%)から8.7ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は23.9%と、前期(21.7%)比2.2ポイント上昇し、件数で前期の10社に対し11社の実施となった。また、来期予定では当期比8社減の3社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「同業者間との競合」をトップに挙げ24.8%、次いで「売上の停滞」23.0%、「利幅の縮小」17.7%、「地場産業の衰退」7.1%の順に続き、前期との比較では「同業者間との競合」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業が「同業者間との競合」、設備工事業が「売上の停滞」、「地場産業の衰退」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ78.3%、次いで「販路を広げる」、「技術力を強化する」41.3%、「情報力の強化」39.1%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(平成21年10～12月期)の予想業況判断D I 値は 21.7 と、今期(13.0)実績比8.7ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、今期実績比売上額が 8.7(今期28.2)と、プラスからマイナス値に転じ36.9ポイントの低下見通しにある一方、収益は 2.2(今期2.2)と、横ばいの見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D I 値は、今期実績比請負価格が 4.4(今期10.9)と、マイナス値が縮小し6.5ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は21.8(今期30.5)と、プラス値が縮小し8.7ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

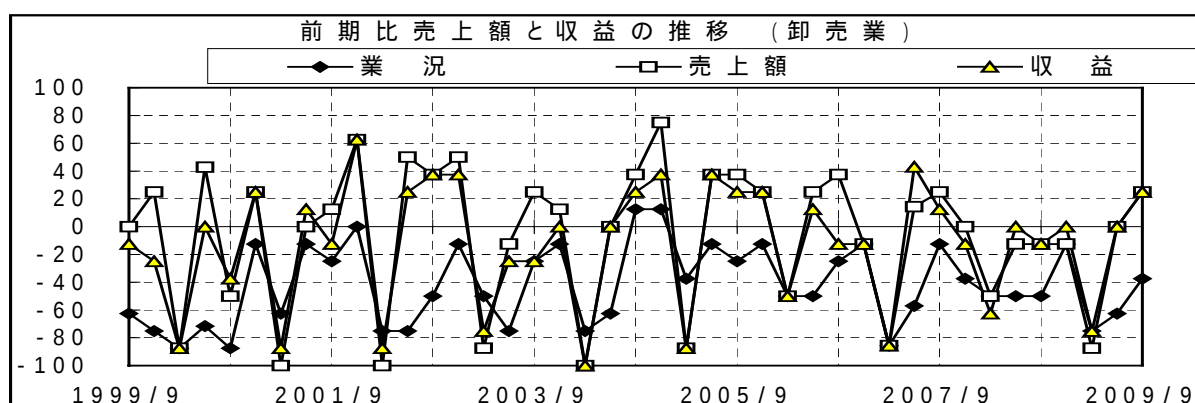
卸 売 業 8 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-75.0	-62.5	-37.5	-25.0
売上額	-87.5	0.0	25.0	12.5
収益	-75.0	0.0	25.0	0.0

今期の業況判断DI値は 37.5 と、前期比マイナス値が25.0ポイント縮小し2期連続の改善となった。地区別にみると、三石、様似地区が改善し、浦河、静内地区で横ばいとなっている。

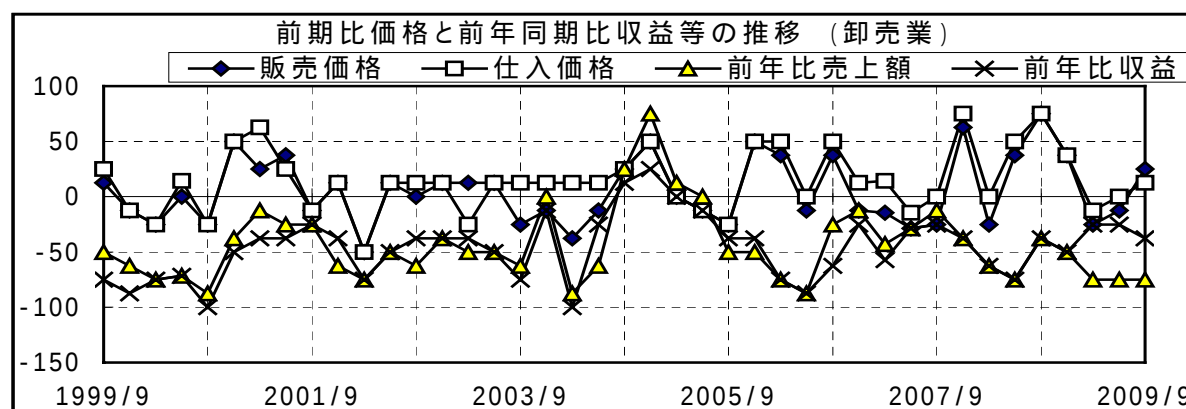
売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が25.0、収益が25.0 と、それぞれゼロからプラス値に転じ25.0ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
販売価格	-25.0	-12.5	25.0	0.0
仕入価格	-12.5	0.0	12.5	0.0

販売価格判断DI値(25.0)は、前期比マイナスからプラス値に転じ37.5ポイント上昇、仕入価格判断DI値(12.5)は、前期比ゼロからプラス値に転じ12.5ポイント上昇し、それぞれ価格上昇基調を強めている。業種別にみると、農林・水産が販売、仕入価格ともに上昇、食品が販売、仕入価格ともに低下している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-12.5	0.0	12.5	37.5
人手状況	25.0	12.5	-12.5	-37.5

残業時間判断DI値は12.5と、残業時間が増加したとする企業割合が増え、前期比12.5ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は12.5と、前期比プラスからマイナス値に転じ25.0ポイント低下、人手不足感を強めている。

□ 設備投資の動き

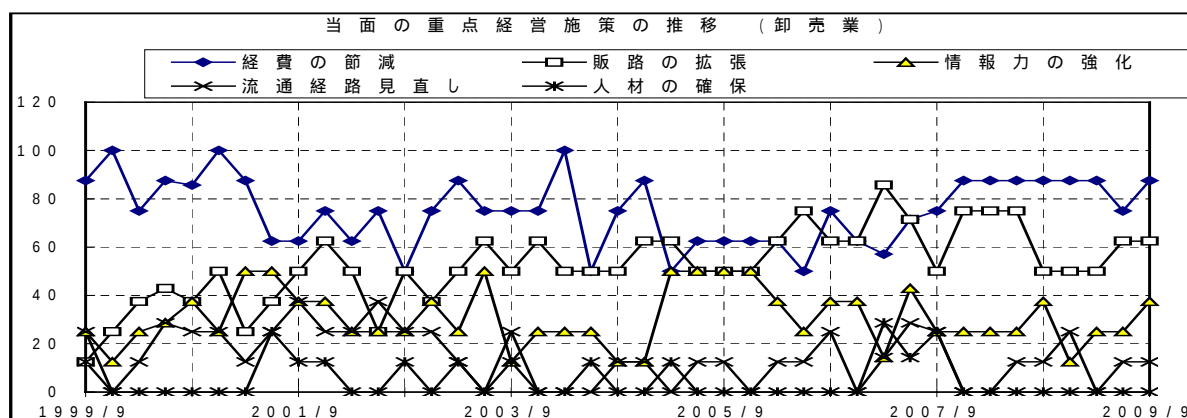
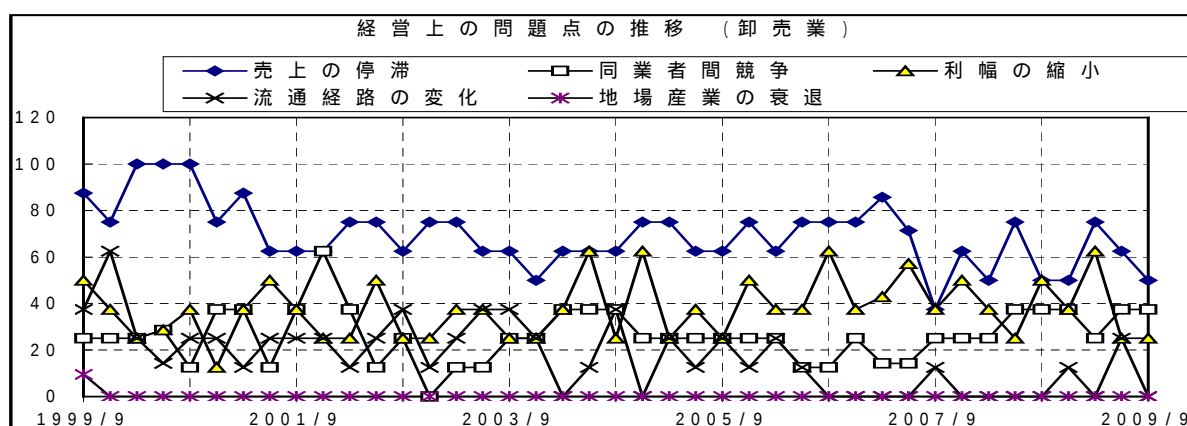
設備投資の充足感を示すD I 値は 12.5 と、前期 (12.5) のマイナス値が横ばいとなり引続き不足感を示す一方、適正と回答した企業は 87.5%と、前期 (62.5%) から 25.0 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 25.0%と、前期 (12.5%) 比 12.5 ポイント上昇し、件数で前期の 1 社に対し 2 社の実施となった。また、来期予定では当期比横ばいの 2 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」、「取引先の減少」をトップに挙げ 50.0%、次いで「同業者間との競合」37.5%、「利幅の縮小」、「販売商品の不足」25.0%の順に続き、前期との比較では「販売商品の不足」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産が「売上の停滞」、「同業者間との競合」、食品が「売上の停滞」、「取引先の減少」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 87.5%、次いで「販路を広げる」62.5%、「情報力の強化」37.5%の順となっている。業種別にみると、農産・水産が「経費の節減」、食品が「経費の節減」、「販路を広げる」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期 (平成 21 年 10~12 月期) の予想業況判断 D I 値は 25.0 と、今期 (37.5) 実績比 12.5 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断 D I 値は、今期実績比売上額が 12.5 (今期 25.0) と、プラス値が縮小し、収益が 0.0 (今期 25.0) と、プラスからゼロ値に転じ、それぞれ 12.5、25.0 ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断 D I 値は、今期実績比販売価格が 0.0 (今期 25.0)、仕入価格が 0.0 (今期 12.5) と、それぞれプラスからゼロ値に転じ 25.0、12.5 ポイント低下、価格基調に高低のないゼロ水準見通しとなっている。